

「由利牛“待ってました”」 子吉小 給食にすき焼き丼



本荘由利地域産の黒毛和牛「秋田由利牛」を使った給食が、由利本荘市の子吉小学校（大庭了校長、175人）で提供され、児童たちが地元で育まれた逸品グルメを堪能した。

25日の給食で由利牛のバラ肉を使ったすき焼き丼を提供。児童たちは「この日を待ってました」「脂もおいしい」などと声を上げ、笑顔で頬張っていた。

神坂芽依さん（5年）は「家では由利牛をあまり食べる事がなかったので、食べられてよかった。家族においしさを伝えたい」と話した。

由利牛の給食提供は、同市とにかほ市、2市を管轄するJA秋田しんせい、生産者らで組織する「秋田由利牛振興協議会」（会長・湊貴信由利本荘市長）の企画。子どもたちに由利牛を知ってもらい、家庭での購入にもつなげて消費拡大を図る狙い。

2021年度は薄切り肉166キロを用意。カレーや牛丼などに調理し、3月までに約4600食を2市の全17小学校に提供する予定という。

由利牛は、あきた総合家畜市場に上場された子牛を素牛として本荘由利地域で育てることや、枝肉格付等級が最高ランクの5等級と4等級であることなどが条件。子牛を成牛に育てて出荷する肥育農家が5戸と少なく、年間出荷頭数も200頭台にとどまり、ブランド構築に向けて規模拡大が課題となっている。

（遠藤卓之）



（令和4年1月31日(月)秋田魁新聞記事より抜粋）